公共交通プライシング『自由化』を どう活用するか？

宮崎　耕輔[1]・加藤　博和[2]・板谷　和也[3]・太田　恒平[4]・大井　尚司[5]・
日野　智[6]・吉田　樹[7]

[1]正会員　香川高等専門学校教授（〒761-8058 香川県高松市勅使町 355）
E-mail: miyazaki@t.kagawa-nct.ac.jp(Corresponding Author)

[2]正会員　名古屋大学大学院教授（〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-2(510)）
[3]正会員　流通経済大学教授（〒270-8555 千葉県松戸市新松戸 3-2-1)）
[4]正会員　株式会社トラフィックブレイン（〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-2-9 SP ビル 2 階）
[5]正会員　大分大学教授（〒870-1192 大分県大分市大字旦野原 700 番地）
[6]正会員　秋田大学大学院准教授（〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1）
[7]正会員　福島大学准教授（〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 番地）

公共交通の運賃については，今まさに，長年続いた認可運賃から協議・届出運賃へと大変化が起きようとしている．そのため，「公共交通プライシング研究小委員会」を立ち上げ，今年 5 月までの 3 年間の活動の中で，公共交通の運賃の設定方法に対する考え方を提案し，一定の成果を得た．しかしながら，幅広い社会実装を図るための知見はいまだ不足している．そこで，このような公共交通プライシングの「自由化」時代に，いったいどのような規範が必要か．そのためにいかなる方法論の開発が求められているか．などについて，SS 参加者とともに自由闊達に議論し，新たに設置しようとしている研究小委員会のキックオフとなることを考えている．

Key Words: *Pricing, Community Bus Service, Public Transport*

1. はじめに

2023 年 10 月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の改正により，鉄道・タクシーにおける協議運賃制度が創設され，公共交通の運賃設定の自由度が拡大した．これは，長年続いた認可運賃から協議・届出運賃へと大変化が起きようとしているともいえる．著者らは「公共交通プライシング研究小委員会」を立ち上げ，今年 5 月までの 3 年間の活動の中で，公共交通の運賃の設定方法に対する考え方を提案し，一定の成果を得た[1),2)]．しかしながら，幅広い社会実装を図るための知見はいまだ不足している．そこで，本スペシャルセッション「公共交通プライシング『自由化』をどう活用するか？」（以下では，「本 SS」と記す）では，このような公共交通プライシングの「自由化」時代に，いったいどのような規範が必要か．そのためにいかなる方法論の開発が求められているか．などについて，SS 参加者とともに自由闊達に議論し，新たに設置しようとしている研究小委員会のキックオフとなることを考えている．

以下では，第 2 章において，本 SS の進め方について述べる．そして，第 3 章では，新たに立ち上げようとしている「（仮称）公共交通プライシング実践研究小委員会」における問題意識を紹介する．第 4 章では，本 SS における議論したい点を述べて，本稿のまとめとする．

2. 本 SS の進め方

本 SS は以下のように進める．

(1)「（仮称）公共交通プライシング実践研究小委員会」において取組む内容を紹介する．
(2)登壇者から「公共交通プライシング『自由化』をどう活用するか？」について，取組んでみたいこと，すでに取り組んでいることなどを話題提供する．
(3)SS 参加者を交え，(2)にて話題提供を行った内容について，すでに実践できそうな現場の紹介，あるいはこんな取り組みができる

のではないかといった提案などを自由にディスカッションする.

3. 新たに設置しようとしている「（仮称）公共交通プライシング実践研究小委員会」における問題意識

新たに設置しようとしている「（仮称）公共交通プライシング実践研究小委員会」における問題意識は以下のとおりである.

(1)協議運賃を活用した新たな運賃制度導入についての検討

たとえば，各地で実施された運賃改定の結果に関するレビュー（運賃を上げた結果，どうなったかなど），サブスクリプション，ゾーン運賃制（コミュニティバス，路線バスなどを含めた一体的な運賃の設定），ダイナミックプライシング，都市交通を対象とした運転手確保のための策としてのピークカットの方法（運賃政策で対応できるか，あるいはオフピークを安くする方が良いか），タクシーの事前確定運賃などが想定される.

(2)同時に，有償運送運営協議会と地域公共交通会議が統合されることも念頭に，異なる交通モード，異なる料金（運賃）の決定方法を 1 つにすることに関する検討.

(3)上記にて想定される運賃設定の方法等を，実際に協議運賃にて運賃設定を検討している地域公共交通交通会議等において社会実装に向けた社会実験をする．あるいは，社会実験として取り組みたい内容等の整理.

これまでの協議運賃では，細かい部分を注視せず，おおまかに，大雑把に運賃を決めていた面があったが，なんらかの基準に基づいた決定方法が必要であると考えている．その基準を見出すことによって社会実装に向けた知見を得るために社会実験に取り組み，社会実装を目指す.

4. 議論したい点

協議運賃制度を活用することによって，様々な公共交通のプライシングの方法の実践が想定される．本 SS では，話題提供者からの問題意識，あるいは取組み事例などを受けて，実践できそうな地域，あるいは実践するに際した運賃設定方法，運賃制度のアイディアなど，自由闊達な議論ができればと考えている.

興味をお持ちの方は，是非，SS に参加いただき，議論に加わっていただくことを期待している.

REFERENCES

1) 宮崎耕輔，遠藤俊太郎，竹内龍介，吉田樹，板谷和也，加藤博和：コミュニティバスにおけるプライシングのあり方，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.64，ss6 (6p)，2021.
2) 宮崎耕輔，加藤博和，大井尚司，喜多秀行，遠藤俊太郎；公共交通プライシング手法の概念整理，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.66，ss6 (4p)，2022.